



TITLE:

# 通貨主義とリカードの貨幣論

AUTHOR(S):

有井, 治

---

CITATION:

有井, 治. 通貨主義とリカードの貨幣論. 経済論叢 1929, 28(3): 475-483

ISSUE DATE:

1929-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129719>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號 三 第 卷 八 十 二 第

行發日一月三年四和昭

## 論 叢

電 氣 稅 論 . . . . . 法學博士 神戶 正雄

總 合 社 會 學 概 念 . . . . . 文學博士 米田庄太郎

財 產 生 命 保 險 . . . . . 經濟學博士 小島昌太郎

## 說 苑

最 近 の 諸 國 幣 制 改 革 の 傾 向 . . . . . 經濟學士 島 本 融

美 濃 國 騷 擾 史 . . . . . 經濟學士 黑 正 巖

大 阪 爲 替 會 社 の 業 務 . . . . . 經濟學士 菅野和太郎

## 雜 錄

ワ ー ゲ マ ン 教 授 の 『 景 氣 變 動 論 』 . . . . . 經濟學士 谷口 吉彦

通 貨 主 義 と リ カ ー ド の 貨 幣 論 . . . . . 經濟學士 有 井 活

地 方 費 に 對 す る 國 庫 補 助 . . . . . 經濟學士 安田 元七

東 京 市 財 政 十 年 計 畫 . . . . . 經濟學博士 沙見 三郎

## 通貨主義よりカード の貨幣論

有 井 治

通貨主義 (Currency Principle, School, Theory, or Doctrine) とは銀行主義 (Banking Principle) に對立する言葉であつて、一八八四年 Sir Robert Peel の銀行

雜 錄 通貨主義よりカードの貨幣論

條令に採用された英國に於ける銀行券統制方法に關する意見に於ける主義である。此の語は一八四〇年 W. Norman が下院の發券銀行委員會に於て初めて用ひたるものゝ如く、彼は此主義を以て「銀行券が地金の増減に従つて増減せしめられる」ものであるとした。翌一八四一年同委員會に於て Gilbart は「私は通貨主義を以て發券銀行をして金貨の代りに銀行券を、銀行券の代りに金貨を發行する以外に何事をもなさしめざる事を意味する」と述べ、ツークは之に同意して居る。Jones Loyd (後の Lord Overstone) は一八五八年の銀行條令特別委員會に於て「紙幣又は銀行券は如何なる事情の許に於ても、それが代理する鑄貨又は流通金屬の額と合致せしむることによつて固有の價值を維持せしめなければならぬ」と述べて居る。

要するに通貨主義には派生的な種々な主張が認めらるべきであるとするも、その根本的な主張の要點は、銀行券を以て硬貨の代用物 (Substitute for coins or metallic currency) なりと見、貨幣數量説を採る所から

- 23) Mombert(P.); Einführung in das Studium der Konjunktur (1925)  
Wolff(H); Lehrbuch der Konjunkturforschung (1928)  
1) T. Tooke; History of Prices. vol. iv. p. 167. & passim.

兌換銀行券の制限發行制度を支持せる點にあると思ふ。

## 二

さて右の如き通貨主義とリカードの貨幣論との關係に就ては、一見相反する二つの意見が存在する。例へばワグナーは通貨主義を次の如く簡明に述べリカードの貨幣論との關係に及び、兩者同主張なりとなすもの其一である。

「……通貨主義によれば、銀行券のみは流通投機・價格等に對するその作用に於て、他の信用的流通手段や信用制度の機關と異り鑄貨と同位に置かれ、即ち銀行券の増減は硬貨量の増減が有する作用と同一のものとされる。この(同一の作用を有するものとされる)程度に従つて——一般的に銀行券の發行は銀行業務に非ずして『本性上』の特權(鑄貨規制の如く國家の規制する所となる特權)であるにしろ——銀行券が主として他の如何なる信用的流通手段とも區別されるものである。故に今何等銀行券の發行なかりしものとすれ

ば、(新たな)銀行券(發行)額は、(それが代理する)鑄貨の量のなすと全く量的に同じ作用をなすものであることが結果されねばならぬ。……此の『通貨主義』は既に、一面的なりカードの貨幣理論への復歸であり、而もその更に、一方的に展開されたものである。」

之に反しリカードの貨幣論と通貨主義の主張とは合致せずとする第二の意見がある。例へばバルグレーヴは曰く、「ロバート・ピール卿がその場合に支持した法の主義と方法は、彼も認容した様に『アダム・スミスやリカードの最高權威』に反するものである。スミスやリカードは競争の自由と所持者の意思によつて直ちに硬貨に兌換され得ることを主張し、此主張は如何なる事情の許に於ても所持者に損失を蒙らしめざる様確保さるべき諸條項と相俟つて、銀行券の過剰發行を豫防するであらうとした事が判るであらう」と。

然らばリカードの貨幣論は果して通貨主義の主張と如何なる關係を有するであらうか。ワグナーの云ふ様に通貨主義はリカード貨幣論への復歸であり、又その

- 2) Ad. Wagner-Schönberg; Wörterbuch der politischen Oekonomie. Bd. I. S. 507. 傍點は新に附す。
- 3) Palgrave; Dictionary of Political Economy. 1901. vol. I. p. 472-3. 傍點は新に附す。

展開なのか。或はバルグレーヴの注意する様に兩者は相反する主張なのか。我が國に於てはむしろワグナーの意見が多く祖述されてゐる様に思はれる。私は今この兩者の關係を吟味せんが爲に、リカード貨幣論の大略を述べやう。

### 三

リカードはスミスの後を受けてその一般價值論に於ては全くスミスの交換價值論を承繼して更に之を徹底せしめ、費用勞働價值論を大成した。従つて貨幣の價值に關してもその硬貨を論ずる限に於てはスミス以上に出来る所はないと云ひ得る。乍併、一度紙幣を取扱ふ時には其の態度に顯著なる轉換がある。蓋しリカードは英蘭銀行の兌換券問題を中心として彼の學說を發展せしめたからである。

先づリカードの硬貨の價值即ち購買力を論ずる所を見るに、金銀貨幣の價值は一般價值の發生原因たる効用 (Utility) 稀少性 (Scarcity) 及び必要勞働量 (The Quantity of Labour required to obtain) の三者よりな

るとする。「金銀(貨幣)は他の凡ての商品の如く、たゞ之を生産し且市場に齎すに必要な勞働量に比例してのみ價值を有する。」<sup>4)</sup>

かゝる價值を有する貨幣が一方に於て價值の標準として立ち、他方に商品が交換價值として對立する。かくて價值標準たる貨幣の數量は商品の價格を決定する。勿論この貨幣の數量は支拂方法の節約によつて修正される。即ち「貨幣に對する需要は全く貨幣の價值によつて、貨幣の價值はその數量によつて規制され。」<sup>5)</sup>「金銀の數量に於ける變化は、之と交換さるゝ商品をして(金銀との)對比的(關係に於てのみ)の騰貴又は低廉を齎すに過ぎなう。」<sup>6)</sup>

「或國に於て硬貨のみが使用さるゝ場合に支拂に貨幣として充てらるゝ金屬の數量、或は紙幣が一部又は全部用ひらるる場合に紙幣によつて代用せらるゝ金屬の數量は、次の三者に依存する。第一にその金屬の價值、第二に支拂はるべき價值即ちその額、第三にかゝる支拂を實行するに就て行はるゝ節

4) D. Ricardo; Principles of Political Economy and Taxation. (Gonner's ed. p. 340.) Ditto; High Price of Bullion. (Ricardo's Economic Essays. ed. by Gonner. p. 1.) 參照。  
5) Ricardo; Principles. p. 173.  
6) Ricardo; High Price of Bullion. Essays. p. 1.

約の程度。」<sup>7)</sup>

然るに假令支拂方法の節約によつて貨幣の數量は修正されるとするも、既に貨幣はその素材價值が生産費として一定し、一定せる價值を有するが故に商品の價值標準として作用すとなす以上、かゝる貨幣の價值が唯だその數量の増減によつて變動するとは靜的な論理に於ては考へられない。茲に於てリカードはスミスの云ふが如き貨幣と商品の必要勞働量の比較といふ範圍にのみ踰越するを得ず、素材價值から離れた新しい意味に於ける貨幣價值論が生れた。而もリカードは從來の生産費價值論から離脱し得なかつたのである。

我々はリカードの新しい意味に於ける貨幣價值論を詮索する前に、一應彼の紙幣に對する考察を覗ふ必要がある。彼に取つて發券銀行の存在は金鑛の存在と同様な意義を持つて居た。

「若し或國に於て金鑛が発見される代りに、例へば英蘭銀行の如き流通要具として紙幣を發行する權能を持つ銀行が設立されるならば、或は商人への貸

出の方法により或は政府への貸上金の方法により、多額の紙幣を發行して通貨の總量を増加するとせば、金鑛（發見）の場合と同様の結果が惹起するであらう。即ち流通要具は價值に於て下落し、各商品はそれに比例して價格の騰貴を経験するであらう……

……（地金の高價  
論文集五頁）

かくて前述の如くリカードはその生産費價值説を維持する限り却つてその理論の矛盾に陥るに至り、尙生産費價值説を維持せんが爲には、貨幣の價值が貨幣に對する需要供給の變動に應じて直ちに變動せしめられる様な生産費を案出せなければならぬ。かくして彼は通貨に特有な生産費として鑄造料を認め、之を彼の貨幣價值論の理論的根據としたのである。

「國家が貨幣を鑄造し何等の鑄造料を徴しない時は、貨幣の價值は品位量目を同じうする地金銀の價值と均しかるべきであるが、鑄造料を徴收する時は一般地金銀に比して鑄造料だけその價值大となるべき筈である。蓋し（この後の場合には）鑄貨は（地金

7) Ricardo; Proposals for an Economical and Secure Currency. Essays. p. 158.

銀に比して）より大なる労働量を必要とし、換言すれば同じ事であるが、これを獲得するために、労働のより大なる量を必要とする生産物の価値を持つに至るからである。

「國家のみが鑄造を行ふ場合には、この鑄造料の額には限度がない、蓋し鑄貨の量を制限することによつて鑄造料は如何なる金額迄も高め得るからである。」（原論三）（四一頁）

即ち彼は貨幣の鑄造を以て國家のみが之を行ふものと前提し、鑄造料を以て一種の獨占價格構成の要素と見たのである。故に鑄造料の多少は貨幣に對する需要供給の關係即ち貨幣數量の大小に因るものと考へたのである。

此のリカードの鑄造料の思想は尙ほ紙幣に應用せらるゝに至り、彼の貨幣論上重大なる意義を持つ事となつた。彼は嘗に兌換紙幣のみならず、更に不換紙幣・補助貨幣・磨損貨幣の價值の増減にまで此の原理を以て一貫説明してゐる。だから此の見點からすればリカ

ードの貨幣論は實に一切の國家的支拂手段に關する價值決定の原理を述ぶるものとなす事が出来る。然る限に於て彼の貨幣理論は金屬論者メタリヤムトの立場から名目論者ノミナリヤムト、殊にクナップの名によつて知らるゝ貨幣國定學說貨幣國定學說即ち貨幣の價值は法制の所産なりとなす學說に近いものとなつてゐる。

「紙幣が流通するのは此の原理に基く、紙幣（の發行）に對する手数料の全部は（以上の意味に於ける）鑄造料と考へられる。故に紙幣はそれ自ら何等の素材價值を有しないけれども、尙ほその數量を適當に制限することによつて同一の稱呼を有する鑄貨又はそれに含まるゝ地金に均しい交換價值を持つものである。亦同一の原理によつて——特に數量の制限によつて——磨損貨幣は曾て法定の品位量目を有してゐたのであるから、當然その持つべき價值で流通せしめ得る、そしてそれは決してその磨損貨幣が現在その内に含む金屬の價值によるのではない……」

「かゝる原理によつて紙幣が其の價值を維持する

が爲には、正貨に兌換せられることを必要とし、唯だ（國家によつて價值標準と宣言せられたる金屬の價值への變動）に應じてその數量を制御することのみが必要なのである。若し價值標準が與へられたる品目量目の金であるならば、紙幣は金の價值下落に應じて増發されなければならぬ、換言すれば結果に於て同じ事であるが、物價騰貴に應じて増發されなければならぬ。

リカードの紙幣に對する見解は次の言葉によつても明らかに觀取される。それは一の章標券説である。<sup>カルダール、ナオリ</sup>

「銀行券は之を形成する紙片以上の價值を有するものではない。それは鑄造料が贅嘆すべき、即ち其の全價值に達するやうな貨幣と考へることが出来る……」

「斯の如き貨幣の（數量）が一定の限度内に維持される限り、通貨として如何なる價值をも附與することが出来る……」<sup>10)</sup>

要するにリカードは其の勞働費用價值論より出發して硬貨の生産費を與へられたる一定のものとなし、素材價值に基く貨幣の價值を論じた。然るに貨幣數量説を採用し貨幣の價值が其の數量によつて定まるとなすに及んで其の立論と背馳するに至り、特に紙幣の價值を論ずるに際しては生産費の何たるやに苦しみ、鑄造料なる特別の生産費を案出するの止むを得ることとなつた。而も前述の如くその論述は寧ろ最初の出發點たる實體價值を離れ、官能價值に即する名目學派の態様を呈するに至つたのである。故に「通貨は全部紙幣から、而もそれが代表する筈の金と均しい價值を有する紙幣から成立つ場合に、最も完全なる状態にある」のである。<sup>11)</sup>

#### 四

以上私は通貨主義の根本的主張を擧げ、之に關聯してリカードの貨幣理論を示し、彼の貨幣論に於ける一般的立論或は終局的な結論は地金主義よりは寧ろ名目主義を採り、殊に貨幣國定學說に近きものとなつてゐる。

9) Ricardo; Principles. p. 341-2. 傍點は新に附す。  
10) Reply to Mr. Bosanquet's practical Observations. p. 121 et passim.  
11) Ricardo; Principles. p. 349.



ることを明にし得たと信ずる。爲にリカードの主張は通貨主義よりも寧ろ銀行主義と見做すべきものと思ふ。此の意味に於てパルグレーヴが通貨主義を採用したビールの銀行條令がスミスやリカード等の最高權威の主張に反してゐるとした事は正當なりと認めなければならぬ。

然らばリカードを以て通貨主義の創始者となし、ワグナーの如く通貨主義を以てリカード貨幣論への復歸でありその發展擴張されたるものとするのは誤謬なのであらうか。私は之を全然肯定し得ないと共に否定をもし得ない。蓋しリカードは初め取引所の仲買人であつたのであり、金融政策論から經濟學者として有名になつたのである。右に私の示した彼の貨幣論はその一般的立論であり終局的立場に於ける結論であり、彼の貨幣論を通觀しての理論である。故に最初の彼の立論とこの行論との間にはかなり逕庭あることを認めなければならぬ。彼の研究の進歩と共にその結論や政策的意見の變化したる事は之を認容せなければならぬから

である。

此の見地からする時彼の初期の立論殊に『地金の高價』<sup>12)</sup>を以て通貨主義の嚆矢となし、その主張を基礎付けるものとするは誤なりとは云ひ難い。此の論文には左様な主張が含まれてゐることは先に引用せる所によりても漠然と推知せらるゝであらう。加之通貨主義は兌換券を以て正貨の代用物と見、貨幣數量を採用する。準備金増加すれば兌換券はそれに從つて増發せられ、其の結果物價の騰貴となり輸入の超過となり、輸入超過は金の流出となり準備金の減少となり、次で兌換券を收縮せしむるに至るとする自動作用は此の論文に於て鮮明に見らるゝが爲である。

リカードは貨幣數量説を採り、右の論文に於ては一國に存在する貨幣數量の補正手段として特に外國貿易乃至爲替關係を強調説明して、正常なる流通狀態に於ては各國はその富及び經濟狀態に適應する貨幣數量を有する、從つて貨幣はその價值(必要勞働量)に適應して流通し、爲替手形は必要なる各國間の支拂を決済す

る、而も貨幣は凡ての國に於て同じ價值を持つてあらうから、一國から他國へ移轉されることはないとする。

「之等諸國の内の一に於て若し金鑛が発見されるならば、其國の通貨は流通する貴金屬數量の増加のため價值を低下せしめられ、爲に最早他國に於けると同じ價值を維持することが出来ないであらう。金銀は鑄貨であらうと、地金銀であらうと 他の方の凡ての商品を支配する法則に従ふものであつて直ちに輸出の目的物となる。金銀はその安價な國から高價な國へと去つて行く、そして此事は金鑛に充分な生産力があり、各國に於ける資本と貨幣の割合が金鑛發見以前と同じものとなり、金銀が各國各地に於て同じ價值になる迄此の移動は繼續するであらう。」  
 (「地金の高價」論文 集四一五頁)

「……………私は信する、以上述ぶるが如き法則が世界各國に於ける貴金屬の價值を制御して一國より他國への流通を起し又は制御する法則なりと。」  
 (同上、論文集)

(一三頁)

斯くの如きを以て通貨主義の主張は、一面的なりカード貨幣論への復歸であるとするのは否定し難いのである。但し茲にリカード貨幣論とは初期のものを意味し、彼の最後の圓熟せる彼自身としては最高調に達せる貨幣理論を意味するのではない事を注意せなければならぬ。屢々云ふ如く最初素材價值に即せる理論を探りし彼は、その全體的終局的立場に於ては官能價值に即する貨幣章標券説又は貨幣國定學説に近似せるものとなつてゐる。故にワグナーの如く云ふは少くとも正確ではない。勿論彼の初期の立場に於ける理論も終局的に到達せる立場に於ける議論も共に或は一面的な(*one-sided*)ものと謂ひ得るであらう。乍併、通貨主義の主張を基礎づける貨幣理論は素材價值を重視するものならざるべからざるが故に、リカードの貨幣論としては初期の理論への復歸であり、その一面的に(*one-sidedly*)發展擴張されたものと解さねばならぬ。

さりとて又バルグレーヴがリカードヤスミスは銀行

祭が「所持者の意思により直ちに兌換せらるゝ」ことを主張したとするのは、通貨主義の主張と合致こそすれ相容れざるものと考へ得ない。これまた正確なりと云ふことは出来ない。蓋しかゝるリカードの主張は前述の如く初期のものであり通貨主義を基礎づけるものである、リカード貨幣論の通貨主義と相反するものは後期の立論であるからである。

要するにワグナーはリカード貨幣論の初期の一面的な立論を通貨主義と關係せしめ、バルグレーヴは後期の行論と通貨主義の主張とを對比してゐるものと思ふ。兩者は一見相反する如く見えるが實は相容れざる意見ではない。リカードが相反する二つの思想の分岐點に立つて居たことは、例へばボザンケとの論争の場合の如く烈しく肉迫されると獨斷的立言に逃避せざるを得ざりし事實が之を立證する。「貨幣を以て單なる價值章標なりと説明するリカード及びその祖述者は、奇妙にも地金主義者と呼ばれてゐるが、これは單に委員會の名稱からのみ來たのではなく彼の學說の内容そ

れ自體にも負ふ所あるのである」<sup>14)</sup>

—